

勉誠出版

和歌文学会 会員様対象 特別割引のご案内

全品 **20%OFF**

割引クーポンコード: 6926e47d13
(期限: ~2021年11月30日)

謹啓

日頃より、弊社をお引き立ていただきまして、誠にありがとうございます。
さて、この度、会員様対象の特別割引セールを行うことになりました。
当リストの新刊・近刊書籍をはじめ、勉誠出版タイトル全品が対象となります。
この機会にぜひともご購入をご検討くださいますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

謹白

●ご注文について

- ・弊社ウェブサイトよりご注文を承ります。

<https://bensei.jp>

各種クレジットカード、paypal(クレジットカード・デビットカード)でのご決済が可能です。
ぜひご利用くださいませ。

割引クーポンコード: 6926e47d13 (期限: ~2021年11月30日)

こちらの10ケタの英数字を、必ずご入力ください！
未入力の場合、割引が適用されず、定価でのご請求となります。ご了承ください。

- ・メール添付、FAX、電話でもお受けしております。
ご氏名・ご住所・電話番号・公費／私費の区別・公費の場合は必要書類・宛名・日付の有無をお知らせください。
- ・2000円以上のお買い上げで、国内全国送料サービス（※ 海外への配送に関しては、実費を頂戴します）

***ウェブサイト以外の方法によるご注文の際は、
和歌文学会の会員であることをお知らせください。**

●ご連絡先

Mail info@bensei.jp
電話 03-5215-9021
FAX 03-5215-9025

より詳細な「研究書 新刊・近刊のご案内」が
右のQRコードからダウンロードいただけます。



最新の出版総合目録は
右のQRコードから
ダウンロードいただけます。



新刊書籍一覧 注文書

* 割引価格は税込です。

ISBN	書名	編著者	出版年	本体価	割引価格	注文数
◆近刊						
32011-1	室町文化の座標軸―遣明船時代の列島と文事	芳澤 元 編	2021/10	9,800	8,624	
39004-6	説話の東アジア『今昔物語集』を中心に	高陽 著	2021/9	12,000	10,560	
32006-7	戦国時代劇メディアの見方・つくり方―戦国イメージと時代考証	大石学・時代考証学会 編	2021/9	3,200	2,816	
32007-4	怪異学講義―王権・信仰・いとなみ	東アジア怪異学会 編	2021/9	3,200	2,816	
32008-1	日記と雑誌記事から読む日露戦争（仮）	西川武臣 著	2021/9	2,800 (予価)	2,464 (予価)	
32009-8	日本中世社会と村住人	蔵持重裕 編	2021/10	9,500	8,360	
31004-4	慶應義塾図書館蔵 論語疏卷六 慶應義塾大学附属研究所斯道文庫蔵 論語義疏 影印と解題研究	慶應義塾大学論語疏研究会 編	2021/10	18,000	15,840	
29612-6	中国史書入門 現代語訳 北斉書	氣賀澤保規 監修／池田恭哉・岡部毅史・梶山智史・倉本尚徳・田熊敬之 訳	2021/11	6,000	5,280	
◆新刊・既刊						
39001-5	もう一度読みたい日本の古典文学	三宅晶子 編	2021/7	2,400	2,112	
31001-3	中世寺院の仏法と社会	永村眞 編	2021/6	12,000	10,560	
32001-2	首里城を解く―文化財継承のための礎を築く	高良倉吉 監修／島村幸一 編	2021/9	3,800	3,344	
31002-0	創られた由緒―近世大和国諸社と在地神道家	向村九音 著	2021/6	8,000	7,040	
30002-1	書物・印刷・本屋―一日中韓をめぐる本の文化史	藤本幸夫 編	2021/6	16,000	14,080	
29199-2	中世和歌論―歌学と表現と歌人	中川博夫 著	2020/11	12,000	10,560	
29204-3	真田幸弘点取百韻 翻刻と解題	玉城司・小幡伍 編著	2021/2	9,000	7,920	
29200-5	中国古典文学に描かれた厠・井戸・簀―民俗学的視点に基づく考察	山崎藍 著	2020/11	9,000	7,920	
20077-2	中近世移行期の文化と古活字版	高木浩明 著	2020/12	15,000	13,200	
29196-1	幕末明治の社会変容と詩歌	青山英正 著	2020/2	10,000	8,800	
29202-9	和漢朗詠集とその享受 増訂版	三木雅博 著	2021/1	15,000	13,200	
39000-8	物語文学の諸相と展開	中野幸一 著	2021/3	12,000	10,560	
20078-9	アーネスト・サトウと蔵書の行方―『増補浮世絵類考』の来歴をめぐって	小山騰 著	2020/11	4,200	3,696	
31003-7	日本古代の仏教者と山林修行	小林崇仁 著	2021/8	12,000	10,560	
32003-6	中世武家領主の世界―現地と文献・モノから探る	田中大喜 編	2021/8	3,800	3,344	
35000-2	古建築調査ハンドブック	山岸常人・岸泰子・登谷伸宏 著	2021/8	1,400	1,232	
32401-0	古文書研究 第 91 号	日本古文書学会 編	2021/7	3,800	3,344	
22289-7	渤海の古城と国際交流	清水信行・鈴木靖民 編	2021/2	14,000	12,320	
22300-9	中世の博多とアジア	伊藤幸司 著	2021/2	9,500	8,360	
22301-6	戦国合戦図屏風の歴史学	高橋修 著	2021/2	9,000	7,920	
22277-4	古文書への招待	日本古文書学会 編	2021/1	3,000	2,640	
22280-4	増補改訂新版 日本中世史入門―論文を書こう	秋山哲雄・田中大喜・野口華世 編	2021/2	3,800	3,344	
32002-9	近世の村と百姓	渡辺尚志 著	2021/8	9,800	8,624	
32502-4	元朝の歴史―モンゴル帝国期の東ユーラシア【アジア遊学 256】	櫻井智美・飯山知保・森田憲司・渡辺健哉 編	2021/6	3,200	2,816	
32505-5	書物のなかの近世国家―東アジア「一統志」の時代【アジア遊学 259】	小二田章・高井康典行・吉野正史 編	2021/8	3,000	2,640	
32004-3	杉田玄白と江戸の蘭学塾―「天真樓」塾とその門流	片桐一男 著	2021/7	7,000	6,160	
22297-2	鷹狩の日本史	福田千鶴・武井弘一 編	2021/2	3,800	3,344	
32000-5	勤番武士の江戸滞在記―国枝外右馬江戸詰中日記	岩淵令治 編	2021/3	10,000	8,800	
27058-4	明治の一発屋芸人たち―珍芸四天王と民衆世界	永嶺重敏 著	2021/1	3,500	3,080	
22299-6	土地の記憶から読み解く早稲田―江戸・東京のなかの小宇宙	ローザ・カーロリ 著／大内紀彦、フィリップ・ドルネッティ 訳	2021/3	2,700	2,376	
32501-7	東アジアにおける知の往還【アジア遊学 255】	国文学研究資料館・高麗大学校グローバル日本研究院 共編	2021/3	2,800	2,464	
32500-0	東アジアの歌と文字【アジア遊学 254】	真下厚・遠藤耕太郎・波照間永吉 編	2021/3	2,800	2,464	
32503-1	交錯する宗教と民族―交流と衝突の比較史【アジア遊学 257】	鹿毛敏夫 編	2021/7	2,800	2,464	
32504-8	史料が語る東インド航路―移動がうみだす接触領域【アジア遊学 258】	水井万里子・大澤広晃・杉浦未樹・吉田信・伏見岳志 編	2021/7	2,800	2,464	

32506-2	アヘンからよむアジア史【アジア遊学 260】	内田知行・権寧俊 編	2021/9	2,800	2,464	
38000-9	日本語文字論の挑戦—表記・文字・文献を考えるための 17 章	加藤重広・岡端裕剛 編	2021/3	7,000	6,160	
21057-3	大嘗祭—隠された古層	工藤隆・岡部隆志・遠藤耕太郎 編	2021/1	3,800	3,344	
29203-6	親相の文化史	相田満 著	2021/2	9,000	7,920	
22140-1	新装版 唐物と東アジア—舶載品をめぐる文化交流史	河添房江・皆川雅樹 編	2016/2	2,000	1,760	
30001-4	大宅壮一文庫解体新書—雑誌図書館の全貌とその研究活用	阪本博志 編	2021/5	3,500	3,080	
82254-7	パブリック・ヒストリー入門—開かれた歴史学への挑戦【オンデマンド新版】	菅豊・北條勝貴 編	2021/5	4,800	4,224	
20074-1	日本の図書館建築—建築からプロジェクトへ	五十嵐太郎・李明喜 編	2021/3	3,500	3,080	
20285-1	新しい産業創造へ【デジタルアーカイブ・ベーシックス 5】	時実象一 監修／久永一郎 責任編集	2020/5	2,500	2,200	
22279-8	古代の日本と東アジア—人とモノの交流史	鈴木靖民 著	2020/7	10,000	8,800	
22278-1	新羅中古期の史的研究	武田幸男 著	2020/7	12,000	10,560	
22288-0	金沢文庫古文書 喫茶関係編年資料集	永井晋 編	2020/9	10,000	8,800	
22272-9	古文書の様式と国際比較	小島道裕・田中大喜・荒木和憲 編／国立歴史民俗博物館 監修	2020/2	7,800	6,864	
20073-4	日本の表装と修理	岩崎奈緒子・中野慎之・森道彦・横内裕人 編	2020/3	7,000	6,160	
22268-2	日本建築の歴史的評価とその保存	山岸常人 著	2020/2	17,000	14,960	
22276-7	近世大名墓の考古学—東アジア文化圏における思想と祭祀	松原典明 編	2020/6	12,000	10,560	
22290-3	生きるための地域史—東海地域の動態から	中村只吾・渡辺尚志 編	2020/10	8,000	7,040	
22266-8	日本近世社会と町役人	望月良親 著	2020/2	6,000	5,280	
22265-1	近世豪商・豪農の〈家〉経営と書物受容—北奥地域の事例研究	鈴木淳世 著	2020/2	10,000	8,800	
22267-5	近世都市の常態と非常態—人為的自然環境と災害	渡辺浩一／マシュー・デーヴィス 編	2020/2	7,000	6,160	
20076-5	江戸庶民のまじない集覧—創意工夫による生き方の智慧	長友千代治 著	2020/10	6,000	5,280	
22269-9	江戸日本橋商人の記録—〈にんべん〉伊勢屋高津伊兵衛家の古文書	澤登寛聡・筑後則 編	2020/3	11,000	9,680	
21056-6	儒教儀礼と近世日本社会—閨斎学派の『家礼』実践	松川雅信 著	2020/7	10,000	8,800	
22261-3	甦る「豊後切支丹史料」—バチカン図書館所蔵マレガ氏収集文書より	松井洋子・佐藤孝之・松澤克行 編	2020/2	12,000	10,560	
29197-8	琉球船漂着者の「聞書」世界—『大島筆記』翻刻と研究	島村幸一 編	2020/3	10,000	8,800	
22257-6	歴博甲本洛中洛外図屏風の研究	小谷量子 著	2020/2	10,000	8,800	
22292-7	挑発する軍記	大津雄一 著	2020/10	3,800	3,344	
22291-0	吉田松陰と学人たち	徳田武 著	2020/10	10,000	8,800	
20072-7	医学・科学・博物 東アジア古典籍の世界	陳捷 編	2020/2	12,000	10,560	
22286-6	ロマンフ王朝時代の日露交流	東洋文庫・生田美智子 監修／牧野元紀 編	2020/8	3,800	3,344	
22275-0	スイス使節団が見た幕末の日本—ブレンワルド日記 1862-1867	横浜市ふるさと歴史財団・ブレンワルド日記研究会 編	2020/6	9,800	8,624	
22285-9	新彰義隊戦史—附・「彰義隊名鑑」「彰義隊文書」	大蔵八郎 編	2020/11	7,000	6,160	
23081-6	「本読み」の民俗誌—交叉する文字と語り	川島秀一 著	2020/6	3,500	3,080	
22263-7	沢尻敬三とアチック・ミュージアム—知の共鳴が創り上げた人文学の理想郷	加藤幸治 著	2020/1	3,500	3,080	
20075-8	司書のお仕事 2—本との出会いを届けます【ライブラリーぶっくす】	大橋崇行 著／小木曾真貴 監修	2020/11	1,800	1,584	
22264-4	荒れ野の六十年—東アジア世界の歴史地政学	與那覇潤 著	2020/1	3,200	2,816	
27055-3	日本画の所在—東アジアの視点から	北澤憲昭・古田亮 編	2020/4	6,500	5,720	
22069-5	宋代中国都市の形態と構造	伊原弘 著	2020/6	4,500	3,960	
22262-0	描かれたマカオ—オーダーウェント・コレクションにみる東西交流の歴史	貴志俊彦・朱益宜・黄淑薇 編	2020/4	22,000	19,360	
21054-2	メディアのなかの仏教—近現代の仏教的人間像	森寛 編	2020/5	7,500	6,600	
21055-9	上海におけるプロテスタント—現代中国の都市と宗教空間をめぐる変遷	村上志保 著	2020/5	6,000	5,280	
22718-2	中世日本の茶と文化—生産・流通・消費をとらえて 【アジア遊学 252】	永井晋 編	2020/9	2,800	2,464	
22717-5	仏教の東漸と西漸 【アジア遊学 251】	荒見泰史 編	2020/9	2,800	2,464	
22716-8	酔いの文化史—儀礼から病まで 【アジア遊学 250】	伊藤信博 編	2020/8	2,800	2,464	
22715-1	漢学とは何か—漢唐および清中後期の学術世界 【アジア遊学 249】	川原秀城 編	2020/7	2,800	2,464	
22714-4	明治が歴史になったとき—史学史としての大久保利謙 【アジア遊学 248】	佐藤雄基 編	2020/6	2,800	2,464	
20718-4	書物学 第 18 巻 蔵書はめぐる—海外図書館の日本古典籍コレクション	編集部 編	2020/7	1,800	1,584	

* リストに無い書籍をご注文の際は、こちらにお書きください

お申し込みは
Web Site●<https://bensei.jp>
FAX●03-5215-9025
E-mail●info@bensei.jp

勉誠出版
〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町 2 丁目 18-4
TEL 03-5215-9021

ご氏名	備考欄 * 公費・私費の区別をお知らせください * 公費の場合には、必要書類・宛名・日付の有無をお書きください
ご住所	
電話番号	

芳澤 元……………[編]

室町文化の座標軸

遣明船時代の列島と文事

金閣・銀閣の煌めきに隠れた「日本文化」の分水嶺を探る。

大きく飛躍した21世紀の室町時代研究が向かう次なるステージは、現代日本の起源といわれた「室町文化史」の検証、再構築にある。義満・義持・義教の執政期である応永・永享年間を中心に隆盛した、能・連歌・床の間・水墨画……。その創造を支えたものとは何だったのか。都鄙の境を越え、海域を渡った人びとが残した足跡、ことば、思考を、歴史学・文学研究の第一線に立つ著者たちが豊かに描き出す必読の書。

目次

まえがき●芳澤元

総論

室町文化論構想ノート——都鄙関係・境界地域からの見直し●芳澤元

第一部 文化を育てる社会構造

「室町時代」の地域性●山田徹
室町期の大名被官と都鄙の文化的活動●川口成人
室町期東国の政治・社会秩序●江田都夫
足利將軍家の規範先例——「義満型」と「義持型」なる二類型と応永という時代●石原比伊呂

第二部 室町文化の知識の源泉

年号「応永」考●臼井和樹
句題和歌と唐宋詩——出典から見た問題●小川剛生
日本中世禅林における中国文学受容について——応永年間を中心に●太田亨
世阿弥の能楽論における朱子学の影響——「大学」「中庸」の引用及び世阿弥の心身論・抽象論の形成●重田みち

第三部 諸芸の展開とその時代

足利義持の和歌・連歌とその周辺●山本啓介
応永後期の能と演者●中嶋謙昌
後土御門天皇と連句文芸——文芸を導く天皇●小山順子
連歌師宗祇、日明勘合貿易関与説の疑点●廣木一人
宗祇旧知の入明僧「吉祥院」とは誰か●橋本雄
あとがき●芳澤元

【編者紹介】

芳澤 元（よしざわ はじめ）
明星大学人文学部准教授。
専門は日本中世史、仏教文化史。
著書に『日本中世社会と禅林文芸』（吉川弘文館、二〇一七年）、
『足利將軍と中世仏教』（相国寺
教化活動委員会、二〇一九年）、
論文に「中世後期の社会と在俗
宗教」（『歴史学研究』97号、二〇
一八年）、「梅尾茶・醍醐茶の評判
——十四世紀高山寺の喫茶文
化」（永井晋編『中世日本の茶と
文化——生産・流通・消費をと
して』アジア遊学252、勉誠出版、
二〇二〇年）などがある。

定価 10,780 円(税込)
本体 9,800 円
A5判上製カバー装・448頁
ISBN978-4-585-32011-1 C3021
2021年10月刊行

書 名	部 数
室町文化の座標軸 遣明船時代の列島と文事 芳澤 元 [編]	部
ご注文先ご住所（通信欄）	

もう一度読みたい 日本の古典文学

定価 二、六四〇円(税込)
「本体二、四〇〇円」

A5判並製カバー装・三六〇頁
二〇二二年八月刊行
ISBN978-4-585-39001-5 C0091

三宅晶子【編】

学校で教わっていた「古典」は
実はこんなに面白かった！

『竹取物語』『平家物語』『徒然草』など、
小・中学校・高校教科書に掲載される
日本の古典文学作品を中心にとりあげ、
新しい読み方・楽しみ方、
知っているとより作品が楽しめる豆知識などを
多数の図版とともに解説。
ライトノベルやアニメ・漫画などの題材になり
現代にもつながる古典文学についても考察し、
実際の教育現場での教え方・授業案なども紹介。
古典嫌いになってしまったあなたに贈る、
新しい古典入門。

【编者紹介】

三宅晶子（みやけ・あきこ）

横浜国立大学名誉教授・奈良大学教授。専門は中世日本文学（特に能楽、
古典教育。主な著書に『世阿弥は天才である——能と出会うための一種の
手引き書』（草思社、一九九五年）、『歌舞能の確立と展開』（ベリカン社、二〇
〇一年）、『歌舞能の系譜——世阿弥から榊竹へ』（ベリカン社、二〇一九年）
などがある。『榊書店対談で楽しむ能』シリーズ刊行中、「能の現代」（花も
よ）連載中。

よく知

楽しい古典文学と出会うために◎三宅晶子

第一部 日常のどこかで出会った古典文学

- 【百人一首】感じる『百人一首』◎三宅晶子
- 【竹取物語】不死の薬に託されたかぐや姫の思い◎山田香織
- 【説話】繋がっている今と昔——昔話「こぶとりじいさん」と
『宇治拾遺物語』鬼に瘤取らるる事◎三宅晶子
- 【義経記】『義経記』義経像の変遷◎長島裕太
- 【神話】神話因幡の白ウサギ◎高梨禎史
- 【国語教育】国語教育の役割と「古典」や「古文」の教育◎府川源一郎

第二部 学校で学んだ古典文学

- 【軍記】軍記教材を読みなおす——二度目からの『平家物語』・
「敦盛最期」「木曾最期」の場合◎鈴木彰
- 【平家物語】「敦盛最期」を読み直す◎菊野雅之
- 【竹取物語】『竹取物語』が「竹取の翁」といふものありけり」と
語り出される訳——絵本「かぐや姫」と『竹取物語』の
冒頭部の比較から◎武田早苗
- 【源氏物語】紫式部と出会う◎三宅晶子
- 【徒然草】『徒然草』で学ぶ異文化◎笠原美保子
- 【中国説話】中国の「蟻通し」難題譚◎岡田充博
- 【漢詩】「長恨歌」と謫仙女楊貴妃◎高芝麻子
- 【古筆切】古典文学の本文を考える
——写本・古筆切の世界◎徳植俊之

【国語教育】いざれ役に立つかもしれない古典から、
今に働きかけてくる古典へ◎高木まさき

第三部 現代社会で再生される古典

- 安倍晴明は、なぜスーパーヒーローになったのか。◎一柳廣孝
- ライトノベル・少女小説・児童文庫から親しむ古典文学◎山中智省
- 古典と現代の言葉の接点を求めて◎藤原悦子
- 小学生と古典を楽しむ◎渡辺寛子
- 拡張する「古典」——デジタル時代における
古典の役割と意味の変容◎石田喜美
- あとがき◎三宅晶子

書 名	部 数
もう一度読みたい日本の古典文学 三宅晶子【編】	部
ご送付先ご住所（通信欄）	

定価 2,640円(税込) [本体2,400円]
A5判並製カバー装・360頁
2021年8月刊行
ISBN978-4-585-39001-5 C0091

中世和歌論

歌学と表現と歌人

中川博夫 [著]

和歌の学理と表現、それを担う歌人たちの営為は、どのような意識・観念のもとに展開していったのか――

和歌の史的蓄積を自らの歌学の中に位置づけ、後の和歌と勅撰集のあり方を方向づけた俊成や定家。

彼らの和歌観を直接・間接に選択・継承し、それぞれの和歌のあり方を模索していった為家や京極派。

王朝和歌から連なる中世和歌の史の変遷を丁寧に紐解き、個々の特質と連続性を多面的に明らかにする待望の一書。

〔著者プロフィール〕

中川博夫（なかむら・ひろお）

鶴見大学文学部教授。専門は和歌文学。

主な論文に「鎌倉期関東歌壇の和歌――中世和歌表現史試論」（『中世文学』五九、二〇一四年）、「中世和歌表現史試論」（『国語と国文学』二〇一六年）、「実朝を読み直す――藤原定家所伝本『金槐和歌集』抄」（渡部泰明編『源実朝――虚実を越えて』勉誠出版、二〇一九年）などがある。

〔目次〕

序言

序論

1 中古「本歌取」言説史論

2 本歌取説と実作の評価

――定家の所説と秀歌撰歌をめぐる

3 古注の言説と和歌の実作と現代の注釈と

――「括る」か「潜る」か

4 作意と解釈――『新古今集』の羈旅歌二首をめぐる

歌学論

5 『新勅撰和歌集』序の理念

6 『詠歌一体』論

7 『遂加』の方法

8 『越部禅尼消息』論

表現論

9 中世和歌表現史論

10 『土佐日記』の和歌の踪跡

11 「空に知る」考

12 「身を身」と「思ふ」考

京極派和歌各論

13 「けしき」の様相

14 「三日月」をよむ

15 〈軒〉をとおして

16 〈間〉にうかがう

歌人論

17 西行の影響――『十訓抄』と関東歌人に見る

18 臨終の俊成――「普賢品」を覚悟すること

19 妻の死・母の死――俊成・定家と『源氏物語』

20 治世の音・亡国の音――定家とその周辺

あとがき・初出一覧・索引

本体 二一、〇〇〇円（＋税）

A5判上製カバー装・四九六頁

二〇二〇年十一月刊行

ISBN978-4-585-29199-2・C3092

書名	部数
中世和歌論 ――歌学と表現と歌人 中川博夫 [著]	部
ご送付先ご住所（通信欄）	

本体12,000円（＋税）

A5 判上製カバー装・496 頁
ISBN 978-4-585-29199-2・C3092
2020 年 11 月刊行

和漢朗詠集とその享受 増訂版

三木雅博〈著〉

本体 一五、〇〇〇円(+税)
A5判上製カバー装・四八〇頁
二〇二〇年十二月刊行
ISBN978-4-585-29202-9 C3091

*『和漢朗詠集とその享受』
(勉誠出版、一九九五年)の
増補改訂です。

【目次】

まえがき

序文 伊藤正義

増訂版の刊行にあたって

序 『和漢朗詠集』研究史の沿革と本書

第一篇…『和漢朗詠集』の構成

一 『和漢朗詠集』全般的構成

―『古今集』をはじめとする勅撰和歌集との関において―

二 『和漢朗詠集』上巻四季部の構成―先行詞華集との関連において―

三 『和漢朗詠集』下巻雑部の構成―先行詞華集との関連において―

四 『和漢朗詠集』八月十五夜・月部の構成―都の月・他郷の月―

五 『和漢朗詠集』の部立「白」に関する考察

―『朗詠集』の構成と周辺の資料から―

六 『和漢朗詠集』帝王・親王・丞相部の所収和歌をめぐって

―『古今集』序、同序古注(公任注)とのかかわりを視野において―

第二篇…『和漢朗詠集』の本文

一 『和漢朗詠集』の享受と諸写本の本文形態の相違

二 『和漢朗詠集』古写本における佳句本文の改変をめぐって

三 『和漢朗詠集』古写本における和歌本文の異同と部立の配列

―春部末の「藤」「躑躅」「款冬」の部立を中心に―

四 『和漢朗詠集』博士家写本の解説

―学的情報としての注記の「読み取り」―

第三篇…『和漢朗詠集』の享受と古注釈

一 院政期における和漢朗詠集注釈の展開

―『朗詠江注』から『和漢朗詠集私注』へ―

二 『和漢朗詠集私注』の方法

―『和漢朗詠集私注』の変貌―平安末期から

室町期にかけての『和漢朗詠集』写本の動向と関連して―

鎌倉前期における和漢朗詠集注釈の展開

―『和漢朗詠集私注』から『和漢朗詠集永清注』『和漢朗詠註抄』へ―

五 朗詠注における説話

附篇

一 『千載佳句』の部門の構成に関する考察

―冒頭の四時部を対象として―

二 『和漢朗詠集』所引唐人賦句雑考―出処と享受の問題を中心に―

索引(事項・書名・人名・題目・詩句・和歌)

日本にもたらされた中国の漢詩文、それを承けて平安朝の文人たちがつくりあげた日本の漢詩文、一方で万葉以来展開してきた和歌、これらが享受されていく歴史の交差点に成立したのが『和漢朗詠集』である。本書は『和漢朗詠集』の成立と享受を論じることにより、和の世界が有していた流れと漢の世界からもたらされた流れが交錯し、新しい流れが生み出されていく我が国の文化の創造の過程で現れた、一つの典型的な現象を明らかにしていく。増補・改訂により待望の復刊。

【著者プロフィール】

三木雅博 (みき・まさひろ)

一九五四年和歌山県生まれ。大阪市立大学大学院博士後期課程単位取得満期退学。梅花女子大学文化表現学部日本文化学科教授。博士(文学)。専門は日中比較文学、平安朝文学。

著書に『平安詩歌の展開と中国文学』(和泉書院、一九九九年)、『平安朝漢文学鈎沈』(和泉書院、二〇一七年)、角川ソフィア文庫『和漢朗詠集現代語訳付き』(株式会社KADOKAWA、二〇一三年)など。

書名	部数
和漢朗詠集とその享受 増訂版 三木雅博〈著〉	本体 15,000円(+税) A5判上製カバー装・480頁 2020年12月刊行 ISBN978-4-585-29202-9 C3091
ご送付先ご住所(通信欄)	

中世寺院の仏法と社会

永村 眞【編】

中世日本において寺院は、宗教的な施設のみならず、

貴顕や武士等、様々な人々が行き交う、

政治・経済・文化形成にも大きな影響を有した場であった。

しかし、諸寺院内部で伝持されてきた史料群は、

その特質からアクセスが容易ではなく、

編者らによる寺院史料の調査・研究の方法論の構築により、

近年、大きな研究の進展を見せるようになった。

畿内近国、関東に所在する諸寺院に伝来する

史料群の博搜により、寺内・寺外の僧俗の

社会的かつ宗教的な関わりのなかで、

「日本仏教」を形づくる多彩な仏法とその発展を実現した

寺院社会の構造と思想的背景を立体的に描き出し、

中世寺院の歴史的特質と展開を明らかにする貴重な成果。

中世日本を読み解くための必読の書

【編者紹介】

永村 眞（ながむら・まこと）

一九四八年生まれ。日本女子大学名誉教授、人間文化研究機構理事、東大寺学術顧問。専門は日本中世史・中世仏教史。
著書に『中世東大寺の組織と経営』（塙諸房、一九八九年）、『中世寺院史料論』（吉川弘文館、二〇〇〇年）、『中世醍醐寺の仏法と院家』（吉川弘文館、二〇二〇年）などがある。

【目次】

はしがき…永村 眞

I 醍醐寺の法流と修学

中世醍醐寺の顕・密「聖教」と法儀…永村 眞

南北朝内乱と清浄光院房玄…石田浩子

南北朝から室町前期における理性院流と

太元帥法別当職の相承

— 理性院宗助と大覚寺證菩提院光覚の対立 —…佐藤亜莉華

醍醐寺三寶院門跡満済の教学活動…姜 錫正

醍醐寺・根来寺と田舎本寺との寺僧交流

— 尾張国万徳寺を通して —…藤井雅子

「義演准后日記」とその紙背文書…関口真規子

修法と秘号— 五大虚空藏法を通して —…井上清子

醍醐寺所蔵「野月」と松橋流秘点…高橋恵美子

II 寺院の法会と社会

中世南都の法華会…高山有紀

「春日権現験記絵」の編纂者…坪内綾子

中世東寺の修学活動— 西院と観智院 —…西 弥生

十五世紀における北野社領西京と西京神人…三枝暁子

春日社神供備進と興福寺学侶…高山京子

室町將軍家の比丘尼御所と根本所領…小谷量子

III 中世の仏法と寺院

摂関期・院政期における聖徳太子信仰と女性

— 四天王寺に集った女性たち —…榊原史子

鎌倉前期寺院社会の禪宗理解…矢野立子

中世「律院」と「結界」…飯田晶子

中世鑊阿寺の寺内組織…中田 愛

雑賀衆の戦いと鈴木孫一…三浦早織

あとがき…藤井雅子

定価 二二,二〇〇円(税込)
(本体 二一,〇〇〇円)A5判上製カバー装・六四〇頁
二〇二一年六月刊行
ISBN978-4-585-31001-3 C3015

書 名	部 数
中世寺院の仏法と社会 永村 眞【編】	部
ご送付先ご住所（通信欄）	

定価 13,200円(税込)・本体12,000円

A5判・上製カバー装・640頁

2021年6月刊行

ISBN978-4-585-31001-3 C3015

中野幸一〔著〕

物語文学の諸相と展開

平安文学研究の大家による
提言や試論を集めた必読の二書。

『源氏物語』『うつほ物語』『堤中納言物語』などの
物語史を検証。

緻密な文章表現の分析により、
物語世界に新たな解釈を提示する。

『平家公達草紙』『しづくににぐる物語』『下燃物語』
『すもり物語』『しら露物語』など

新出の物語文学資料に関する論考も充実。

〔著者プロフィール〕

中野幸一（なかの・こういち）

早稲田大学名誉教授。文学博士。

専攻は平安文学。二〇一一年瑞宝中綬章受章。

主な編著書に『物語文学論攷』（教育出版センター、一九七一年）、『う
つほ物語の研究』（武蔵野書院、一九八一年）、『奈良絵本絵巻集』全12

巻別巻3巻（早稲田大学出版部、一九八七―一九八九年）、『常用源氏
物語要覧』（武蔵野書院、一九九五年）、『源氏物語古註釈叢刊』全十巻（武

蔵野書院、一九七八―二〇一〇年）、『フルカラー 見る・知る・読む
源氏物語』（勉誠出版、二〇一三年）、『ちりめん本影印集成 日本昔

噺篇』（共編、勉誠出版、二〇一四年）、『正訳 源氏物語 本文対照』

全十冊（勉誠出版、二〇一五―二〇一七年）、『正訳 紫式部日記 本文対照』

（勉誠出版、二〇一八年）などがある。

〔もくじ〕
はじめに

古代物語の系譜と類別——物語史の検証——

前期物語の性格——物語史の検証——

長編物語の成立をめぐる（講演）

古物語の合成発展——短編から長編へ——

『うつほ物語』の成立年代

——史実・歳事・風俗上からの考察——

『うつほ物語』の叙述の方法——長編物語への試み——

『うつほ物語』の構造

『源氏物語』の一回性人物——その消滅型と再生型——

『源氏物語』の「かざり」について

『源氏物語』の表現方法——短文表現と再叙表現——

『源氏物語』の依存表現

『源氏物語』における強調・感動・傍観の草子地

『源氏物語』における「夕ばえ」の解釈について

猪苗代兼載『源氏一部抜書』の資料的価値

『物語のいではじめのおや』考

——『竹取物語』の文学史上の地位——

『源氏取り』の物語の方法

草子地攷

『紫式部日記』の時間的構造

——その回想と執筆時期について——

『堤中納言物語』の形態とその編纂意図

『堤中納言物語』をめぐる試論

——はたして短編物語集か——

六条斎院禊子内親王家の「物語合」について

——その発見時の成果の再吟味——

書陵部蔵の佚名物語一巻について

——『平家公達草紙』の残欠か——

『平家公達草紙』をめぐる試み

『しづくににぐる物語』考

『下燃物語』の残欠絵巻について

——後期物語の新出資料——

『すもり物語』考

『しら露物語』考

定価 一一、一〇〇円（税込）

〔本体 一一、〇〇〇円〕

A5判上製カバー装・五四四頁

二〇二一年四月刊行

ISBN978-4-585-39000-8 C3095

ISBN978-4-585-39000-8 C3095

書 名		部 数
物語文学の諸相と展開		
中野幸一〔著〕		
ご送付先ご住所（通信欄）		

定価 13,200円（税込）/本体12,000円
A5判上製カバー装・544頁
2021年4月刊行
ISBN978-4-585-39000-8 C3095

首里城を解く

高良倉吉 [監修]
島村幸一 [編]

文化財継承のための礎を築く

首里城を歴史的・文化的に
考えるために――

中国や日本、東南アジアなどとの海を越えた交流により独自の文化を築いた琉球王国。首里城は、その政治・外交の中心を担い、琉球王国の文化の豊穡さを体現する一大建造物である。数度の火災、琉球処分や沖縄戦等、歴史の荒波のなかでその大部分を損壊することとなったが、数多の人びとの尽力により、首里城復元事業が推進され、二〇〇〇年には世界遺産として登録されることとなった。

しかし、二〇一九年(令和元年)十月三十一日未明、首里城を火災がおそい、正殿と北殿、南殿が全焼し、その再建・復元は喫緊の課題として、現在検討が進められている。

失われた首里城を取り戻すために、いま、必要な知識は何か。

考古学・歴史学・建築学・文学等、諸分野の第一人者を集結、首里城の歴史と文化を解き明かし、再建に向けた礎を提示する画期的な書。

【監修者・編者紹介】

高良倉吉 (たからくらよし)

琉球大学名誉教授・元沖縄県副知事。専門は琉球王国史。首里城復元の委員。著書に『琉球王国史の探求』(榕樹書林、二〇一一年)など。

島村幸一 (しまむらこういち)

立正大学文学部教授。専門は琉球文学・琉球文化史。著書に『琉球文学の歴史叙述』(勉誠出版、二〇一五年)、『琉球船漂着者の「聞書」世界――「大島筆記」翻刻と研究』(編著、勉誠出版、二〇二〇年)など。

【目次】

序文…島村幸一

首里城を創る――正殿を中心に…高良倉吉

●考古学から

首里城の原点についての一考察

――グスク時代の遺跡で見られる隔離空間を再考する…山本正昭

出土陶磁器から見た首里グスク…瀬戸哲也

「コラム」トカラ、三島の城郭遺跡…伊藤慎二

「コラム」宮古・八重山諸島のグスク時代石積遺構について

…久貝弥嗣

●歴史学から

古琉球期における首里城の様相と変遷…上里隆史

「コラム」絵図から見た首里城…外間政明

近世琉球期の首里城――儀礼空間としての首里城…麻生伸一

「コラム」首里城で働く人々

――庖丁人と琉球の料理について…山田浩世

近代の首里城――県民に開かれた御城…喜納大作

●文学・芸能から

祭場としての首里グスク…島村幸一

芸能の舞台としての首里城…茂木仁史

漢詩に詠まれた首里城…高津孝

「コラム」首里グスクの御内原…島村幸一

散文に描かれた首里グスク…仲程昌徳

短歌のなかの首里城…屋良健一郎

●建築学・工芸から

中華礼制蕃国礼執行装置としての首里城…伊從勉

首里グスクの「異産至宝」…上江洲安亨

首里グスクを中心とした衣文化

――三山時代から近世琉球国後期頃まで…久貝典子

首里城を知るための〈入門〉十冊…輝広志

あとがき…島村幸一

定価4,180円(税込)
[本体3,800円]A5判・並製カバー装・336頁
ISBN978-4-585-32001-2 C1020
2021年9月刊行

書名	部数
首里城を解く 文化財継承のための礎を築く 高良倉吉 [監修] / 島村幸一 [編]	部
定価4,180円(税込) [本体3,800円] A5判・並製カバー装・336頁 ISBN978-4-585-32001-2 C1020 2021年9月刊行	
ご送付先ご住所(通信欄)	

中世武家領主の

世界

現地と
文献・
モノから
探る



なぜ武士は
地域社会の中核となれたのか——？

鎌倉末～南北朝期にかけて、東国に端を発した武士団は、その本拠地を東西にひろげ、各所において地域社会との密接な関係を築き上げていく。武士集団が地域における社会編成の中核を担い、交通・流通の要衝を押さえるながら、政治経済のイニシアティブを取るといったことも稀ではなかった。中世日本の重要なアクターたる武士団は、どのような実態をもつて地域社会へ受け入れられていったのか、その支配体制はどのように実現・展開されたのか。文献史料、出土遺物そしてフィールドワークによる分析という、多様な研究手法を駆使し、中世日本の特質を明らかにする画期的な一冊。

目次
序言 田中大喜

第一部 ● 武家領主の地域支配の諸相

材木の生産・流通と武家領主 西田友広

西遷御家人内田氏の本拠景観と高津川流域

—— 現地調査の聞き書きと文献史料から渡邊浩貴

中世後期石見国長野荘をめぐる諸武家領主の動向 中司健一

東国地頭支配の受容と排除 —— 肥後国人吉荘と肥前国彼杵荘 清水亮

中世武士団における一族・被官の西遷

—— 肥前千葉氏を事例として 湯浅治久

紀伊国における武家領主の地域支配と荘園領主 高木徳郎

第二部 ● 地域の港湾と武家領主

石見国高津川・益田川河口域の集散地と武家領主 田中大喜

河口の港が果たした役割 —— 瀬戸内海と日本海を比較して 鈴木康之

そこに港は存在したのか？ —— 伝承からたどる中世の益田 松田睦彦

遠江国笠原荘の「浦」にみる中世の港湾と海村 貴田潔

第三部 ● モノからみる武家領主

陶磁器からみた中世益田 村木二郎

朝鮮初期における陶磁器の生産と貢納・流通 荒木和憲

遺物からみた武家領主の本拠

—— 静岡県の主要遺跡の遺物分析から 池谷初恵

中世後期の領主の好み —— 出土品と財産目録から 水澤幸一

あとがき 田中大喜／執筆者一覧

田中大喜

（たなか ひろき）一九七二年生まれ。国立歴史民俗博物館・総合研究大学院大学准教授（併任）。専門は日本中世史（中世武士団・在地領主研究）。古文書の様式と国際比較（共編著、勉誠出版、二〇二〇年）、『増補改訂新版 日本中世史入門——論文を書こう』（共編著、勉誠出版、二〇二二年）などがある。

定価 四、一八〇円（税込）

（本体 三、八〇〇円）

A5判並製カバー装・三六八頁

二〇二二年八月刊行

ISBN978-4-585-32003-6 C1021

書名	部数
中世武家領主の世界 現地と文献・モノから探る 田中大喜 [編]	部
ご注文先ご住所（通信欄）	

定価 4,180円・本体3,800円

A5判並製カバー装・368頁

2021年8月刊行

ISBN978-4-585-32003-6 C1021

勉誠出版

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX●03-5215-9025

創られた 由緒 近世大和国諸社と 在地神道家

向村九音 著

さきむら・ちかね——奈良女子大学大学院人間文化研究科博士後期課程、満期退学。博士(文学)。
現在、日本学術振興会特別研究員。専門は日本中世・近世の文学。主な論文に「『大乘院寺社雑事記』
を中心に見る率川社——中世期に形成された像と機能」(『叙説』43、奈良女子大学日本アジア言語
文化学会、二〇一六年)、「今出河一友による石上神宮由緒記の生成——「家の由緒」との連関」(『説
話文学研究』55、説話文学会、二〇二〇年)などがある。

【目次】

- 第一章 今出河一友概説
第二章 今出河一友による石上神宮由緒記の生成——「家の由緒」との連関
第三章 「大三輪神三社鎮座次第」の成立と言説の共有
第四章 「大乘院寺社雑事記」を中心に見る率川神社——中世期に形成された像と機能
第五章 「大倭神社注進状並率川神社記附裏書」に見る大和国諸社の由緒再編
第六章 近世期六師神社における由緒生成と古伝の「再発見」
近世における石上神宮鎮魂祭儀札次生成の位相
結び
附表Ⅰ 今出河一友著作・書写本の一覧
附表Ⅱ 大阪府立中之島図書館石崎文庫所蔵大神宗次関連典籍の一覧
翻刻資料 國學院大学図書館所蔵『鎮魂祭略儀式』
参考文献 一覧・あとがき・初出一覧・索引

「古え」は、
いかにして
語られたのか

近世中葉、幕府・藩の統制のもと社寺の秩序化が行われるようになると、
社寺の復興、復権などを目的として「由緒」が希求されるようになった。
それら「由緒」を説く任にあたったのは、神職や僧侶、そして神道家(神学者)であった。
石上神宮・大神神社・大和神社といった山辺の古社をはじめとして
大和国諸社の由緒記を述作した在地神道家、今出河一友。
由緒正しき伝——「失われた古伝」、「俗説とは異なる真の伝」の創出を企図した彼は、
いかなる方法を用いて、歴史的・文化的正統性を描き出したのか。
また、その言説は、地域社会において、どのように受容され、伝播していったのか。
「古え」「淵源」を語る営みの意味を捉えかえす画期的著作。

定価 八、八〇〇円(税込)

【本体八、〇〇〇円】

A5判上製カバー装・二八八頁

二〇二一年六月刊行

ISBN978-4-585-31002-0 C3014

書名	部数
創られた由緒 近世大和国諸社と 在地神道家 向村九音(著) ご送付先ご住所(通信欄)	定価8,800円(税込) 本体8,000円 A5判・上製カバー装・288頁 2021年6月刊行 ISBN978-4-585-31002-0 C3014 部

勉誠出版

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX●03-5215-9025

藤本幸夫〔編〕

（ふじもと・ゆきお）富山大学名誉教授、麗澤大学客員教授。専門は朝鮮語学・朝鮮文献学。二〇二一年学士院賞・恩賜賞を受賞。著書に『日本現存朝鮮本研究 集部』（京都大学学術出版会、二〇〇六年）、『日韓漢文訓読研究』（編著、勉誠出版、二〇一四年）、『龍龕手鏡 鑑研究』（編著、麗澤大学出版会、二〇一五年）、『日本現存朝鮮本研究 史部』（韓国東国大学出版部、二〇一八年）などがある。

書物・印刷・本屋

図版点数
390超

日中韓をめぐ 本の文化史

- 第一部 書物のかたち・書物のジャンル
- 第二部 印刷・活字・技術
- 第三部 本屋・商業出版・蔵書

〈本書の特色〉

中国、朝鮮半島、日本に伝播した書物文化は、各国各地に於いて民間の商業出版——坊刻本——の深淵かつ絢爛な世界を形づくっていった。書籍の出版から販売・読書にいたる具体的な諸相、即ち潤筆料・版下・刻版・彫師・摺師・版木・料紙・装幀・本屋・貸本屋・書価・出版部数・流通・読者・版株・印刷術・禁書・和刻・出版統制等々を中心に、書物史研究を牽引する珠玉の執筆者35名による知見を集結、390点を超える図版資料を収載した

- 書物のジャンル、形態、印刷技術、本屋や商業出版の諸相など、日中韓の書物文化史を詳細に記述したレファレンスツールとして最適の百科事典的書籍。
- 書誌学・出版史・印刷史など、書物研究の第一線を走るオールスターが集結した画期的な一冊。
- 学士院賞、ゲスナー賞、日本出版学会賞、角川源義賞、岩瀬弥助記念書物文化賞等、様々な受賞歴を有する執筆陣が寄稿。
- 390点を超える貴重な図版資料を収載。

日中韓の知の世界を彩る
書物文化を知るためのエンサイクロペディア。

執筆者一覧

- 第一部：佐々木孝浩・柏崎順子・木村八重子・棚橋正博・佐藤圭子・鈴木圭一・石上阿希・大久保純一・湯浅淑子・鈴木俊幸・万波寿子・鈴木達彦
- 第二部：住吉明彦・堀川貴司・長澤孝三・豊島正之・林進・高木浩明・森上修・小秋元段・渡辺守邦・橋口侯之介・永井一彰
- 第三部：鈴木俊幸・塩村耕・長友千代治・岡村敏二・大沼晴暉・大木康・大塚秀高・金文京・上原究一・高橋智・藤本幸夫・李胤錫・全相昱

定価 一七、六〇〇円（税込）
（本体 一六、〇〇〇円）
B5判上製カバー装・八九六頁
二〇二一年六月刊行
ISBN978-4-585-30002-1 C3000

…詳細目次は裏面をご覧ください。

書名		部数
書物・印刷・本屋 日中韓をめぐ 本の文化史	定価 17,600円・本体16,000円	部
	B5判上製カバー装・896頁 2021年6月刊行 ISBN978-4-585-30002-1 C3000	
藤本幸夫〔編〕		
ご送付先ご住所（通信欄）		

勉誠出版

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX●03-5215-9025

〈詳細目次〉

序文

藤本幸夫

●第一部

書物のかたち・書物のジャンル

佐々木孝浩	〈古写本〉	日本の写本——装訂を中心として
柏崎順子	〈江戸版〉	初期出版界の様相
木村八重子	〈草双紙〉	「草双紙」の史的展望
棚橋正博	〈黄表紙〉	黄表紙
佐藤至子	〈合巻〉	合巻における自主規制 ——『三国太郎再来伝』から『現世扶桑太郎』へ
鈴木圭一	〈中本（人情本）〉	中本二編三冊意識
石上阿希	〈春画・艶本〉	「書籍目録」にみる枕絵と好色本
大久保純一	〈錦絵〉	錦絵とは
湯浅淑子	〈おもちゃ絵〉	江戸のおもちゃ絵
鈴木俊幸	〈草紙類〉	上方の草紙類をめぐる
万波寿子	〈仏書〉	日本の仏書
鈴木達彦	〈医書〉	日本漢方の特徴と日本医書

●第二部

印刷・活字・技術

住吉朋彦	〈宋版・元版〉	宋元版研究の道程
堀川貴司	〈五山版〉	五山版をどう考えるか
長澤孝三	〈和刻本〉	「和刻本」について
豊島正之	〈キリシタン版〉	キリシタン文獻
林進	〈古活字版〉	角倉素庵はなぜ出版事業を興したのか——近世初頭、草創期の古活字版
高木浩明	〈古活字版〉	古活字版から整版へ、整版から古活字版へ
森上修	〈古活字版〉	古活字版印刷と木活字駒の彫出技法
小秋元段	〈出版史料としての反古〉	東北大学附属図書館漱石文庫所蔵古活字版『太平記鈔・音義』表紙の復元的考察
渡辺守邦	〈出版史料としての反古〉	表紙裏反古・再考
橋口侯之介	〈彫りと摺り〉	彫師・摺師から見た日本の出版形態
永井一彰	〈版木〉	板木の節

●第三部

本屋・商業出版・蔵書

鈴木俊幸	〈日本近世の本屋〉	本屋と出版——江戸時代における書籍文化の特質
塩村耕	〈日本近世前期の商業出版〉	近世前期の出版界と西鶴
長友千代治	〈貸本屋〉	貸本屋の横顔
岡村敬二	〈蔵書・蒐書（日本）〉	蔵書家の索引、蔵版、蔵書の行方
大沼晴暉	〈蔵書・蒐書（日本）〉	田中さんのおもちゃ箱——小平市立図書館蔵本
大沼晴暉	〈日中韓の商業出版〉	日中韓坊刻本の比較研究或いは此等二か国書物の比較研究のために
大木康	〈中国の商業出版〉	中国書肆史考——近世を中心に
大塚秀高	〈中国の商業出版〉	坊刻本と物語——口頭の物語の出版について
金文京	〈中国の商業出版〉	明代建陽の商業出版と通俗小説
上原究一	〈中国の商業出版〉	明末清初の坊刻における江西の位置付けについて
高橋智	〈蔵書・蒐書（中国）〉	中国の蔵書家について
藤本幸夫	〈朝鮮の商業出版〉	朝鮮坊刻本攷
李胤錫	〈朝鮮の商業出版〉	朝鮮朝出版における坊刻本の性格と位置
全相昱	〈朝鮮の商業出版〉	坊刻本「春香伝」の発生とその変貌について

あとがき
執筆者覧
藤本幸夫

中国古典文学に 描かれた厠・井戸・簪

かわや

かんざし

——民俗学的視点に基づく考察

山崎藍 [著]



「境界」を探る

中国古典文学に描かれる厠や井戸、それにまつわる道具や、井戸の周囲などを「めぐる」という行為には、どのような観念が存在していたのか。「異空間」のひとつとしても位置づけられている厠、そして厠神の存在。文言小説で描かれる「境界としての井戸」の発想を用いて作られた元稹の「夢井」。白居易「長恨歌」におけるかんざし描写の独自性……古代中国の人々がそれらの場所・道具・行為をどのように認識し、如何にその象徴性を詩歌に反映させたかを綿密な資料調査と分析から考察する。従来、等閑視されてきた民俗学的視点から、詩歌研究の新たな可能性を探る快著。

「目次」

- 緒言
- 第一章 正と負の厠神
——中国における厠観
- 第二章 元稹「夢井」考
——中国における井戸観
- 第三章 元稹「夢井」における「邊井」の意味
——死者を悼む旋回儀礼
- 第四章 李白「長干行二首 其一」における「邊牀」
——婚姻に関する旋回儀礼
- 第五章 李賀「後園鑿井」考
——釣瓶と轆轤に託されたもの
- 第六章 白居易「長恨歌」の試み
——かんざしの喪失と破鏡重圓故事
- 附 流れる汗・にじむ汗
——白居易における舞妓の汗描写を中心に
- 補論一 京都大学人文科学研究所蔵『天地瑞祥志』第十六翻刻・校注
——「醴泉」「井」(名和敏光編『東アジア思想・文化の基層構造——術数と』汲古書院、二〇一九年)「白居易新集府」井底引銀瓶「止淫奔也」に詠われる「瓶沈簪折」について——唐詩に垣間見える術数文化(水口幹記編『前近代東アジアにおける(術数文化)』アジア遊学、二四、二〇二〇年、勉誠出版)などがある。
- 補論二 日本の古典文学における井戸描写概説
——「醴泉」「井」
- あとがき
- 主要参考文献一覧
- 英文摘要・中文摘要
- 索引(人名索引・作品名索引・書名索引)



本体 九、〇〇〇円(+税)
A5判上製カバー装・三三六頁
二〇二〇年十一月刊行
ISBN978-4-585-29200-5・C3098

書名	部数
中国古典文学に描かれた厠・井戸・簪 ——民俗学的視点に基づく考察 山崎藍 [著]	本体 9,000円(+税) A5 判上製カバー装・336 頁 ISBN 978-4-585-29200-5・C3098 2020 年 11 月刊行
ご送付先ご住所(通信欄)	部

真下 厚・遠藤耕太郎・波照間永吉

編 「アジア遊学254」

東アジアの歌と文字

声から文字へ、文字から声への往還

声の歌が文字化されたのはいつからだろうか。
また、文字との出会いによって声の歌はどう変化したのだろうか。
日本古代の『古事記』や『万葉集』、近世琉球の『おもろさうし』、中国少数民族の歌垣など、東アジアの様々な時代・地域・民族において創作されてきた歌表現の文字資料・音楽資料、文学・民俗学・文化人類学の分野から検討し、声と文字との共存・影響関係、豊かな歌文化の諸相を明らかにする。

目次

【序言】東アジアにおける歌と文字の出会い ●真下 厚

【総論】中国辺境民族の歌と文字のかかわり ●遠藤耕太郎

【総論】琉球歌謡の文字との出会い
——『おもろさうし』の記載法を中心に ●波照間永吉

I 日本古代における歌と文字

歌における声と文字の出会いと共存 ●岡部隆志

古代の歌の命

——ある手法の変貌について ●エルマコワ・リュドミラ

II 琉球王国・沖縄における歌と文字

琉球王国・沖縄における歌と文字 ——おもろさうし ●照屋 理

琉歌と南琉球の抒情歌の文字記録 ●波照間永吉

南島歌謡の記録と伝承の諸相 ——竹富島の巻唄をめくって ●狩俣恵一

III 中国少数民族における歌と文字

壮族の掛け合いにおける声と文字 ●手塚恵子

ペー祭文における声と文字の往還 ●遠藤耕太郎

中国湘西苗族の歌と文字 ●真下 厚

IV 資料紹介

宮古の古謡と神歌 ●本永 清

ペー族の祭文 ●遠藤耕太郎

必定財前途
一路布教心
也布即檢抄
記肝靴往住
仙怪古小妹
嘉吟礼托佐
男女可分沙
男伝詳是郎
山伯吐双泡
判故花凍淪
鶴門也添朱
登一路蓋花
別送橋床靴
香落山亭了
錦獎坊途鶴

【編者紹介】

真下 厚（ましもとあつし）

元立命館大学教授。専門は日本古代文学・民俗学。

主な著書に『歌を掛け合う人々 東アジアの歌文化』（共著、三弥井書店、二〇一七年）などがある。

遠藤耕太郎（えんどうこうたろう）

共立女子大学文芸学部教授。

専門は日本古代文学と中国少数民族文化。

主な著書に『万葉集の起源—東アジアに息づく抒情の系譜—（中公新書、二〇一〇年）などがある。

波照間永吉（はてるまえいきち）

名桜大学大学院国際地域文化研究科（後期博士課程）。専門は歌謡説。

主な編著書に『定本 おもろさうし』（外間守善と共編著、角川書店、二〇一二年）、などがある。



本体 2,800 円(+税)

A5判並製カバー装・208頁
ISBN978-4-585-32500-0 C1390
2021年2月刊行

書 名	部 数
東アジアの歌と音楽 【アジア遊学No.243】 真下 厚・遠藤耕太郎・波照間永吉 [編]	部
ご送付先ご住所（通信欄）	